

令和元年度 豊中市総合計画審議会第一部会

第1回会議 議事要旨

日時 令和元年(2019年)10月3日(木)18時～19時45分
場所 第二庁舎3階大会議室
出席者 久部会長、大野委員、宗前委員、濱元委員、山田委員、吉原委員
計6名
事務局 都市経営部経営計画課：榎本、寺田、坂本、田中、島、上田
案件 1. 2019年度(2018年度実施分)政策評価結果の施策シートについて
2. その他
資料 資料1 2019年度(2018年度実施分)政策評価結果
参考1 第4次豊中市総合計画(本編)
参考2 第4次豊中市総合計画(概要版)

会議録 下記のとおり

1. 開 会

(開会)

事務局：

- ・ (成立要件の確認)

事務局：

(配布資料確認)

2. 案件1「2019年度(2018年度実施分)政策評価結果の施策シートについて」

部会長：

- ・ 「2019年度(2018年度実施分)政策評価結果の施策シートについて」を事務局からお願いします。

事務局：

- ・ (次第に基づき施策シートに対する審議会の役割を説明)
- ・ (部会の進め方の説明)

部会長：

- ・ ただいまの説明について、ご質問・ご意見はございませんか。
- ・ それでは、それぞれの施策シートごとにチェックをしていきたいと思います。先ほど事務局から説明がありましたように、施策の内容ではなく、わかりやすい文章になっているか、P D C Aサイクルがまわっているかを中心にご意見をいただけたらと思います。

(第1章-1「子育て支援の充実」シート(P15)について)

委員：

- ・ P D C Aサイクルを見るということですが、P D C Aがどこを指しているのか説明いただけますか。

事務局：

- ・ (シートのP D C Aが該当する部分を説明)

部会長：

- ・ 先ほどの委員のご質問にもありましたように、このシートは読んでいて、わかりにくいように感じます。これはD C Aの部分が明確に区分されていないからです。「子育てできる環境づくりにつなげました。」とありますが、これが成果なのかD oなのか、今一つわかりにくいです。「こういうことをした(D o)ので、こんな成果がありました。(C h e c k)しかしまだ課題が残っているので、その課題に対してこんなことをします(A c t i o n)」というように書いていただくと、D C Aが明確になります。これを意識して、わかりやすく文章を仕分けしていただければ読みやすくなると思います。
- ・ つまり、D C Aの部分がわかりにくいので、C Aがまわっているかが判断しづらいというのが現状だと思います。

委員：

- ・ この施策シートと P35 の施策の方向性シートを見比べてみると、施策の方向性シートはC Aの部分もきちんと書けていると思います。しかし施策の方向性シートの内容すべてを施策シートに書くことはできません。
- ・ 先ほど部会長がおっしゃったように、施策シートは細かいことを書くのではなく、「B」と判断した根拠を書けばいいと思います。例えば、「取り組んだ課題は順調に進んでいる」とか、「やらないといけないことはありますが、概ね想定範囲内で順調に進んでいる」ということが書いてもいいと思いますし、「実際に取組みを進めてみると想定外の大きな問題が発生しましたが、そこはきちんと対応しながら取り組んでいます」というようなことが書いてあると、客観的に見ても順調に進んでいることがわかると思います。

部会長：

- ・ P35～37の施策の方向性シートがまとまって、P15の施策シートになっていることを考えると、P35～37のシートはP15のシートの根拠資料となっていると言えます。それをふまえて施策の方向性シートを見てみますと、例えばP35のシートでは、問題点・今後想定される事項の「○」が2つに対し、今後の方針の「○」は4つということで整合性がとれていません。内容を見てみても対応していません。この部分でCAが不整合を起こしているので、施策シートもうまく書けていないのではないかと判断します。
- ・ 本来の審議会の役割は、施策シートのチェックだけをするのですが、第1章-1に関しては施策の方向性シートの段階でもCAが不整合を起こしているのです。まずこちらをチェックしていただくと、この内容が施策シートにも反映してくるのではないと判断しますので、担当課にもフィードバックしていただければと思います。

委員：

- ・ 確認ですが、施策シートを書く前に施策の方向性シートを書かれているのですか。

事務局：

- ・ そうです。

部会長：

- ・ 次のシートに移ります。

(第1章-2「保育・教育の充実」のシート(P16)について)

- ・ ここのDCAの切り分けがうまくいっていないように感じます。
- ・ 例えば1つ目の○で、「仕組みづくりを行いました」とありますが、この効果がどう出ているのかが読み取れません。その後の部分でも「取組みが必要です」と書いてあり、これはCheckの段階でActionになっていません。また「保育人材の確保や質の向上」についての取組みが今年度どうするのかも書かれていません。

委員：

- ・ Doの部分は不明な点もありますが、CAの部分は書けているように思いました。PDCAサイクルを打ち出すのであれば、Doが不明瞭だと思います。2つ目の○は、どこの項目がDoを指しているのかわかりません。「基本設計を進めました」や「校名を(仮称)庄内さくら学園としました」は結果であり、その結果の中身の説明がどこかにあるとわかりやすいと思いました。

部会長：

- ・ 少し先のシートになりますが、よく書けていると思うシートがあります。P20 の「消防・救急救命体制の充実」のシートです。これは読んでいて内容がすっと入ってきます。「概ね達成しました」ということからどこまでできているのかもはっきりわかりますし、しかしさらに必要なこともあるので頑張りますということまで書いています。P21 も同様にわかりやすいと思いました。両方とも「A」評価がついており、きちんとP D C AサイクルをまわしているからA評価になっているかもしれません。豊中市は、救急救命体制に以前から力を入れて行っていたので、A評価がつくのも妥当だと思います。
- ・ こういう書きぶりを他のシートでもできると、我々も読んでいて理解しやすいと思います。モデルになるシートはあるので、事務局で共有していただいて、書きぶりを統一する工夫をしていただければわかりやすさは向上すると思います。

委員：

- ・ 先ほどのP16のシートですが、2つ目と3つ目の○は庄内地域のことしか書かれていません。市全体の話を書かなくてもいいのでしょうか。

部会長：

- ・ これも私は書きぶりの問題だと思います。庄内地域でモデル的なことを実践しようとして、そこでチャレンジして一定の成果が出て、それを全市的に提供して展開するのであれば、私はOKだと思います。しかし実際のシートではその書き方になっていないので、先ほどの委員がおっしゃった疑問がでてしまうのだと思います。もう一度Pのところを改めて読んでみると「子どもたちの『人とつながり、未来を切り拓く力』が育まれるよう取り組みます」とあり、これが実現できていないといけないので、このPに対する評価をどうしたのかを本来書かないといけないと思います。
- ・ 施策の方向性シートから施策シートにまとめることを意識するだけでなく、Pから施策シートに対してもチェックしていただくと、Pがどう受けているか、何を書かないといけないかというところも、より明確化してくると思います。今年度まちづくりの基本計画を作成しています。これに基づいて更新する必要がある場合は適宜更新していきたいと考えています。

委員：

- ・ 庄内地域のお話は前回の全体会でも出ていましたが、南部地域の学校の統廃合は中心的な課題であるため柱として書いているのかと思いますが、計画段階のものとP39にありますような現状を常に分析していくことも必要であり、書いておく必要があると思いました。

部会長：

- 大学でも自己点検評価を行っており、私は取りまとめ委員をしています。評価をするうえで、アピールしたいところがあると思います。「今回はこれだけやって、こんな効果が出ています。一方で課題は残っています。」という2段構えでシートを作成してくださいとお伝えしています。先ほどの委員のお話も同様で、頑張っアピールしたいことがあったら、ここの施策部分に書いてくださいということです。「昨年度はこれだけ頑張ったので、こういう効果が出ました。しかしまだこういうところで課題が残っている。だから今年度はこういうところを重点的に頑張りたい」というようなメリハリをつけていただくとアピールにもなりますし、今後どうやっていくかの方向性の共有にもつながります。施策の方向性シートの中で、本当に頑張ったこと、自分たちが誇れるところをぜひ施策シートに書いてほしいと思います。

委員：

- 教育関係の指標が気になりました。3枚の施策の方向性シートの指標を見てみますと、全体でまんべんなく取ろうとしているのはうかがえますが、P38のシートでは「保育や幼児教育の充実を進めます」の結果として研修の参加者数は疑問に思います。実際に保育の状況が良くなったとか、例えば影響度の大きかった事業からみると「保育園の中でよろしくないことが起きていないかどうかを査察して、その結果起きていない」のであれば、やっていることとその結果として保育に関する社会的な影響としてこういう結果になりましたというのを出していいと思います。取りにくいので現在の指標になっていると思いますが、検討してみてもどうかと思います。
- 逆にP39のシートを見ると、かなり欲張りな指標の印象を受けます。上にある5つの影響度の大きかった事業の結果として、これぐらいの数字が上がってくる、あるいはこの5つの事業がうまくいくと、下の5つの指標が上向きになると担当者が本当に思えるだろうかと気になります。総花的な指標を出してもらっていますが、それだとシートを埋める作業が苦痛になってくると思います。なぜなら仕事と乖離してしまうからです。そうならないよう気をつける必要があると思います。

部会長：

- 1つ1つのシートに担当者の考えがあると思いますが、私が評価シートを書く時には、まず文章から書きます。どこができて、どこができていないかを書いて、それを根拠づけるためのエビデンスを整えていく作業をしています。文章にきちんと根拠をもたせるために根拠資料をつけていく方が作業としてはやりやすいと思います。逆に資料・データを読み込んでから書こうとするとすごく大変な作業になります。ですので、前者の方がいいと思います。これはこのシートに限らず全体に言えることですので、もう一度エビデンス資料のデータと文章を書くときに、文章から書いていただいて、そのエビデンスとなる資料を影響度の大きかった事業・指標で挙げていただく方が作業としてもやりやすいと思います。
- それでは次のシートに移ります。

(第1章-3「子ども・若者支援の充実」のシート(P17)について)

委員：

- ・ ここでも評価の理由の根拠づけのところで、P41 と見比べていました。P17 の総合評価の理由の1つ目の○で「自尊感情の醸成を行いました」、P41 の成果でも同様に「自尊感情を養うことができました」と書いていますが、これを判断するための指標は青年の家の利用回数等の増加になってはいますが、これだけでここまで書くのは難しいように思います。ですので、文章の書きぶりを変えるか、他に根拠となる指標があった方がいいと思います。
- ・ P41 の影響度の大きかった事業の「寄り添い型学習支援事業」は、生活困窮者自立支援法に基づく事業ですが、これ自身を高校への進学率が何%であったというようなところに話をもっていくこと、つまり数字で成果を測るというのは本来の趣旨としては望ましくないものだと思います。自尊感情は測るのが難しいものなので、表現としてどうかと疑問に思いました。

部会長：

- ・ 大阪市の教育委員会では、イベントを行って自尊感情が高まったかどうかの評価をしました。そのイベントとは、子どもたちがキッズシティと呼ばれる自分たちの町を作り上げて運営していこうというイベントです。例えば町には銀行や市役所があり、市長も自分たちで選びます。お店体験もあり、それでお金をまわしていくことを体験します。そのイベントに参加をする前に心理学的な手法で評価を行い、イベント体験後にも同じ手法で子どもたちに効果測定しています。そうするとイベント前と後でどれだけ子どもたちの気持ちが変わったのかというデータが出てきます。これはまさに自尊感情であり、社会の中での自分の役割をイベントで確認できたということです。また子どもたちの自立心も上がっていて、見事に測定できたことになります。豊中市ではどういう効果測定がいいのかという手法論までいけてないのではないかと思います。そこを工夫していくと、はっきりと自尊感情が上がりましたと言えると思いますので、今後イベントを行うときには効果測定をするという習慣づけをやっていただきたいです。

委員：

- ・ 私は社会教育委員会会議でこの分野に関わっていますが、「自尊感情を養うことができました」という表現はエビデンスに基づいた評価の表現ではないと思います。客観的に参加者が増えたとか、より簡潔な書き方で書いたほうが良いように思います。その方が評価者の主観が入らず、批判を避けられると思いますので、簡潔な書き方をした方がいいと思います。

委員：

- ・ P41 の成果の3つ目の○で「貧困の世代間連鎖を断つという目的を果たせました」とありますが、これも言い過ぎだと思います。世代間連鎖を断つかどうかは、その子どもたちの将来に関することなので、その前の進路選択が希望通り実現されたということが達成できたぐらいにとどめておいた方がいいように思います。

部会長：

- ・ 子どもの貧困は社会でも問題になっています。それが様々な課題の1つだということはわかりますが、トピックスになるものは文章の中にも入れた方がいいと思います。トピックスになるような問題がどうなっているかを市民側も知りたいと思いますので、そういう意味では今のシートはまとめすぎているのかもしれませんが、だから読んだ時のもなんとなくはわかりますが、具体的に何かの部分がわかりにくくなっているように思います。
- ・ P17の2つ目の○で、1つの○の中に「関係機関等と連携して支援を行い、相談しやすい環境づくりに努めました」と「関係課と連携した多面的な取組みにより、更なる包括的な支援体制づくりを強化します」という同じような表現が繰り返されていますが、その間に本来は評価があります。「ここまでできましたが、まだこんな課題が残っています。だからこうします」とすれば、この文章もわかりやすくなると思います。
- ・ それでは次のシートに移ります。

(第2章-1「自立生活支援の充実」のシート(P18)について)

- ・ 最初の印象としては文章が長いので、読むのが大変に思いました。もう少し文章としてのわかりやすさもほしいと思います。

委員：

- ・ 質問ですが、このシートは社会福祉と社会保障の両方をほぼ包括するような事業から構成されていますか。

事務局：

- ・ そうです。

委員：

- ・ 影響度の大きかった事業を施策の方向性シートで見ると、各シートの中身が濃く、特にP47のシートは国民健康保険と介護保険のという金額としても大きい事業が入っています。またP46のシートもサービスでお金がかかる事業で、どちらもまとめるのが大変だったと思います。

部会長：

- ・ 先ほどの委員のご意見は次の総合計画を作るときに活かせると思います。それぞれの施策に詰め込んでいる事業の度合いがアンバランスになっているので、そのあたりのバランスをとる必要があるように思います。詰め込まれているところは毎年のシートを作成するのが大変です。詰め込むにしても量だけの問題なのか、それぞれの事業や施策内容がストーリーになっていれば文章も書きやすくなると思いますし、評価もしやすくなると思います。

委員：

- ・ このシートではサービスを提供する機能と関係者とのネットワークを作る機能、お金の面でサポートする機能に大きく分かれていると思います。お金に関することは大きく変化せず、変化したとしてもそれは市の取組みではなく外部の要因で変化するものです。この分野は自治体の努力ではどうにもならないものも入っていると思うので、市として独自性を出す領域ではないです。
- ・ サービスごとに提供していく機能があり、その中に犯罪者の更生や障害者と様々な分野があったりとなかなか大変ですが、どうしても書くというのであれば「諸事業を行って、概ね昨年と変わらず推移しました。しかし人手が足りておらず、また近年の傾向はこうだが、後手にまわっていることが課題です」というふうに書いてもいいと思います。

部会長：

- ・ 先ほどの委員のご意見で、国の制度のお話が出ましたが、例えば保険料収納が限られている中で、頑張らないといけません、そこで担当者は苦勞しています」と書くとき非常によくわかります。社会でもどうしようもない状況で豊中市はこんな状況です。制度を変えない限りは市ではどうしようもないというストレートなご意見を書いていただくと読んでいる市民も現場が苦勞していることを市民と共有できます。
- ・ もう1つは、メリハリをつけて施策シートを書いてほしいと思います。複数の施策の方向性シートをまとめるなかで、施策の方向性シートに似たような内容が書いてある場合もあります。その場合施策シートに書くものと施策の方向性シートにとどめておくものを分けて調整しないとけません。
- ・ P18 にたくさんの項目があるのであれば本当に書かないといけないものを抜き出していただいて、書いていくともっとすっきりした文章になります。

委員：

- ・ 5枚の施策の方向性シートを1枚の施策シートにしているので、詰め込んだ感じがします。第2章-1のシートは2ページにまたがってもいいとか、例外を認めてもいいように思います。

部会長：

- ・ 先ほど全体のストーリーを整理すると、もう少しわかりやすくなるのではないかと申し上げましたが、この5つの項目を違う観点で整理すれば他にいくつかの柱が出てくるのではないかと思います。1つは自分の努力で自立してもらい、それに対してどう支援しているか、もう1つは自分で自立はしんどいのでセーフティーネットとして行政が支えていく部分という二段構えになっていると思います。マトリクスで整理すればもう少し書きぶりも調整できたのではないかと思います。

委員：

- ・ 厚労省が打ち出した地域包括ケアシステムを進めていこうという中で、豊中市では福祉部と社会福祉協議会を中心に頑張っておられます。P18 の 1 つ目の○で福祉便利屋事業や地域ケア個別会議など、かなり具体的な細かい事業まで書いていますが、全体のストーリーという点では、厚労省の元で進んでいる中、何に向けて行ったのか、大きくどういう成果があったのかを書いていただいて、個別は施策の方向性シートでひろえるのではないかと思います。

部会長：

- ・ 子どもの貧困や地域包括ケアという現代的で重要な柱やトピックがあり、市民もそこが知りたいと思っているはずです。そこがわかりやすくなればいいと思います。
- ・ 自分たちが書きたいことを書いてしまっている部分もあるが、そうではなく市民が知りたいことを推測して、そこに寄り添う形で文章を書けばメリハリがついてくると思います。
- ・ それでは次のシートに移ります。

(第2章-2「保健・医療の充実」のシート(P19)について)

委員：

- ・ このシートでも「必要です」という書きぶりになっていますが、「必要です」ということはもっとやらなければならないことがあるということです。これは本来「課題です」と書くべきです。
- ・ 方向性シートと照らしながら見ていくと、1枚目が公衆衛生の予防、2枚目が衛生、最後が医療となっています。この中では1枚目が柱になっていると思いますが、市民全体の保健状態をどうしたか、行き届かないところがあったのかななどの書き方をするといいと思います。

部会長：

- ・ 施策の方向性シートから施策シートにきている部分の「40歳代への対応」は、おそらく市がケアをしないといけない国民健康保険の利用者を対象にしていると思いますが、一方で企業に勤めている方は職場でメディカルケアを受けています。この2つを合わせてみたときにどうなっているのか気になります。これは保険に限らず、市役所が追いかける指標だけを取り上げますが、民間で行っているものもあり、データとしては取りにくいと思います。しかし、そこを意識して社会全体の中でどうしていくのかも市役所の役割だと思いますので、全体像の把握も今後は必要だと思います。
- ・ 他市の話になりますが、社会教育の委員をしているときに、市は教育委員会が行っている講座の受講者数を追いかけてしまいましたが、民間や大学でも講座は行っています。その他にも生涯学習を行っている人はたくさんいます。しかしそのデータが手に入らないが故に、自分たちが企画を運営している講座への参加者で評価しようとしています。しかしそれでは意味がないので、他で行っている講座の情報も集めて、それを一元的にマネジメントするという役割を教育委員会がするよう意見を言いました。
- ・ このシートの保健・医療に限らず、社会全体をマネジメントしていく立場が市役所にあると思いますので、考えていただければと思います。

- ・ 余談になりますが、あるお店では歩いた歩数に応じてサービスが受けられる取組みをアプリと連動させて行っています。このような面白い取組みを使ってヘルスケアをしている人もいます。そういうところにも関心をもつと今までと違った考え方が出てくると思います。
- ・ それでは次のシートに移ります。

(第2章-3「消防・救急救命体制の充実」のシート(P20)について)

- ・ 先ほども申しましたように書きやすい分野であると思いますし、わかりやすく書けていると思います。「A」評価も妥当だと思います。
- ・ それでは次のシートに移ります。

(第2章-4「暮らしの安全対策の充実」のシート(P21)について)

- ・ このシートもわかりやすく、メリハリがついていると思います。「やったこと・それに対する効果・今後頑張るべき課題」の3段階で書いているのでわかりやすいと思います。

委員：

- ・ これは警察等と連携を取りながら行っている施策だと思いますが、公の会議や会合は定期的に設定されているのですか。

事務局：

- ・ 開催の頻度等については担当課に確認します。
- ・ 評価シートに書いてある指標は警察のデータから取っています。

委員：

- ・ 本来行政が会議をしたというのは指標にならないものと言われていたのですが、この施策については緊密な連携を取っていますという証拠になると思います。「警察との会議を毎週開催しています」というのが安全性を確保するものではないですが、緊密な連携が取れているというエビデンスにはなります。この施策は市が取り組んだから安全性が上がるというものではないですし、防災で消防や警察と連携を取ったことでシナジーが出来あがり結果として出てくると思います。だから途中の経過として会議の開催頻度を書いてもいいかもしれません。

部会長：

- ・ 近年災害が頻発するようになり、地震や水害の危険性が高まっている中、そこに対する言及がシートには書かれていないので、「これはもう万全の体制を取れています」と書くのか「こういうところがまだ課題として残っている」と書くのかで、今年度重点化して頑張りますというコメントを書いたほうがより市民には伝わりやすくなると思いました。
- ・ それでは次のシートに移ります。

(第5章-1「情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」のシート(P30)について)

- ・ このシートも文章がうまくつながっていないように思います。具体的には1つ目の○で「電子媒体を利用していない市民等に対する情報発信の手段の確保・充実が課題となっており、特に災害時など緊急情報の発信について検討が必要です」と書いてありますが、どうするのかが書いていません。そして次からは「SNS」の話になっています。SNSが使えない人への対応が必要だと書いているのに、次にSNSが出てくるのは違和感があります。

委員：

- ・ 行政が出す政策評価を見るのは初めてで、疑問に思ったのですが、総合評価の理由に今後についてのことは必要なのでしょうか。総合評価の理由ではできたことだけを書いて、今後のことは施策の方向性シートに書いていけばいいのではないかと思います。

部会長：

- ・ 今までのものをより充実させるとか、継続するということは先ほどの委員がおっしゃったようにいらないと私も思います。しかし「こういう課題が残っているから変えます」や「ここを重点化して課題を解決します」という部分のみを書くのはいいと思います。
- ・ 地域自治の話ですが、豊中市は1つの柱として地域自治組織をこれからすべての地域で立ち上げて地域自治を推進したいという柱を掲げているはずですが、その話が3つ目の○の「新千里北町地域自治協議会」しか出てきていません。では市全体として現状はどうか、今年度頑張っていることはなにか、というメッセージをここに載せておくべきだと思います。
- ・ そういう意味では、それぞれの部署・施策で重点化している、あるいは強調すべき項目があると思いますので、そこはぜひ施策のシートに書いていただければと思います。これは市民が知りたいこととも連動してくると思います。

委員：

- ・ 先ほどのSNSのところ、P78の指標に「フォロワー数」がありますが、人数のフォロワー数はあまり意味がないと思います。それより例えばツイッターアクティビティと呼ばれる、どれくらいの人が見てくれたか、反応してくれたかというので評価したほうが良いと思います。

部会長：

- ・ 反応をすぐに見れるのがSNSの強さなので、今のご指摘に合わせてご検討いただければと思います。
- ・ それでは次のシートに移ります。

(第5章-2「持続可能な行財政運営の推進」のシート(P31)について)

- ・ 2 つ目の○で「本市の誇るべき歴史とその意義を市内外の人に実感してもらうことができました」についての根拠データが見当たりません。根拠データを示すか、データがないのであれば書きぶりを調整していただきたいです。
- ・ 持続可能な行財政運営は非常に重要な項目だと思いますが、書いていることが「ペーパーレス会議」などが表に立ってしまって、行財政の健全性は今どうなっているのか、それに対して昨年度は何をしたのか、どういう課題が残っているのかということをごここでは書いてほしいと思います。

委員：

- ・ 地方財政では、経常収支比率を見ることになると思います。市の財政がどうかと言われた時の根拠資料としてこれを出すと思いますが、市民にはなかなかなじみがない数字だと思います。しかし示す必要はあると思います。ペーパーレス化が進んでいるからと言って財政が健全だとはなかなか思えないので、ど真ん中の数字を出した方がいいと思います。そのときにわかりやすくするために注釈をつければ良いと思います。この範囲の数字は市民の人が見てすぐに理解できるものでないのですが、市民は知りたがっていることだと思いますので、注釈をつけて現状を把握してもらった方がいいと思います。

部会長：

- ・ 財政の分野は硬い文章が多いですが、他市の総合計画では、非常にわかりやすく、コラムがついてるものもあります。これはこう読んでください、これは解説するとこうなります、といったことをつけています。こういったわかりやすく書ける工夫はできると思います。

委員：

- ・ すべてのシートを読んでいて、PとDCAの部分が一致していないように思いました。また市民目線というと全体を通してわかりづらいように思いました。

部会長：

- ・ 評価をするようになって初めて評価しづらいことに気づきます。その意味では今回施策ごとの評価をすることで、施策の説明文章が妥当であるかが見えてくると思います。
- ・ 次回総合計画を作り直すときは評価のことも考えて、施策の文章を作成していただければと思います。
- ・ 施策の方向性シートから施策シートに上げていくことは意識していますが、施策の文章から総合評価の理由の部分とはつながっていないことが多いので、書きぶりをチェックすると不整合を起している部分も見えてくると思います。

委員：

- ・ 市民としては、豊中市の財政状況が健全化は知りたいところだと思いますので、ペーパーレス会議などの細かい情報ではなく、財政状況がわかることも書いていただきたいと思います。

部会長：

- ・ それでは、一通り私たちが担当するシートは見終わりました。全体を通して言い足りない部分がありましたら、お願いします。

委員：

- ・ 評価シートの書き方としては、「課題に対してここまでやりました、残っている課題はこれです」という書きぶりを徹底してほしいと思います。
- ・ 社会福祉の分野などシートによっては、かなり過積載なところもありますが、1つ1つの事業名で説明をすると、主語述語の羅列になって書きづらいと思います。それに対しては代表的なものを書くという手法もありますし、「サービス面に関しては概ね前年と同様にできていますが、歳入・歳出面に関しては厳しくなり苦労も増しているが、対応しています」というような機能で取りまとめる手法もあると思います。やや抽象度は上がってしましますが、細かいことは施策の方向性シートをみてくださいと割り切ってもいいと思います。
- ・ 書いていくときに自分で見直す必要があります。書いてみたけど、果たして根拠はあるのか、説明を求められたときに根拠データがありますと言えるのかを考えてほしいと思います。自信をもって書けること以外は書かないということを心掛けるとシンプルな書き方になると思います。

部会長：

- ・ 市役所職員の自己肯定感を高めるためにも、アピールしたいことを書いてほしいと思います。「これを頑張りました、こんな結果が出ました、みてください」というような文章を書くのは、市役所職員は苦手ですが、アピールしたいことを書いていると元気が出ると思います。そういう観点も入れてほしいと思います。

委員：

- ・ 第1章-3にシートはすべての子ども・若者を対象にいますが、P42を見ると成果の2つ目の○に「児童虐待の早期発見・早期対応を実施することで、虐待の未然防止及び重症化を防ぐ役割を果たしました」とありますが、これの根拠となる指標を見ると、2つ目に「児童虐待相談件数」があります。相談件数が増加していることをもって未然防止や重症化を防ぐとは言えないと思います。一方で問題点の2つ目の○では「虐待対応ケースの重度化や虐待対応件数の増加に伴い、きめ細やかな支援が難しくなっています」とありますが、1つの指標でここまで言えないと思います。この指標はあくまで、相談件数が増えただけで、防止や予防までは言えないと思いますが、そこまできれいに言う必要もないと思います。増加したところが成果でいいと思います。その後P17のシートの2つ目の○を見ると、何ができたのかわかりにくく、頑張って対応したのが見えてこないのは残念だと思います。

部会長：

- ・ 市役所職員が使う数字としては%や件数が多いですが、なかなか中身が見えない。そう考えると客観性には欠けるかもしれませんが、エピソードや「こういう声を聞きました、だからこう判断しました」という特徴的な声を入れることによって伝わりやすくなることもあります。プライバシーの問題があっても具体的な個別ケースは書けないという場合であっても、こういうケースに対し未然に防ぐことができましたというふうに書くとわかりやすいと思います。そういう質的な評価指標があってもいいと思います。
- ・ 本日出た意見について、事務局でまとめていただいて、過不足がないか次回議論していければと思います。

3. 案件3「その他」

事務局：

- ・ 連絡事項を1点説明します。
- ・ 次回の第一部会は10月31日(木)18時から、場所はともに第二庁舎3階大会議室になります。

部会長：

- ・ ただいまの説明についてご意見・ご質問はございませんか。

委員：

- ・ 次回はどのような審議になりますでしょうか。

部会長：

- ・ 本日出た意見を事務局でまとめていただいて、その妥当性あるいは追加する項目がある場合は追加して意見集としてまとめていくことになります。

宗前委員：

- ・ 原案を確認して、こういうことを参考意見としてつけてくださいということでもとめるのでしょうか。どのようにまとめるのかイメージを教えてください。

事務局：

- ・ シート全体のご意見と個々のシートのご意見についてまとめていきたいと考えております。

委員：

- ・ 次回までにどういう予習をしたらいいのかを知りたかったので確認しました。

会長：

- ・ もう一度このシートを確認していただいて、漏れがあったら次回追加意見として出していきたいと思います。

- ・ P D C Aが読み取れないので、細かい評価ができないシートがあります。それに対しては書きぶりを見て、来年度のときはこういう書きぶりをしてくださいというところにとどまるかと思えます。
- ・ 最終的な調整は全体会議ですることになると思えます。
- ・ 先ほど吉原委員の市民目線での意見もいただきました。このような意見が市民委員に求められていることだと思えますので、この内容はわかります、この内容がわかりにくいという意見も言っていただければと思えます。
- ・ 第1回豊中市総合計画審議会第一部会をこれで閉会します。

以上